

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域運営推進会議での理念浸透に努める。また、地域の会合等へ積極的に参加してもらい理解や周知してもらおう機会を作っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	もっとグループホームの入居者、スタッフのことを知ってもらい気軽に近所付き合いができるようになりたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括が行っている認知症予防教室にグループホーム代表が講師として参加し、グループホームという一つのサービスの理解を深めてもらい、認知症で、困ったことがあればいつでも相談にのりますとアプローチしている。	○	4月開催予定のめだか感謝祭で、介護相談コーナーを作り地域の方で何かお困りのことがあれば、微力ながら力になりたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開所し始めての評価となるため、外部評価の意義を職員に理解してもらうことから始めている。	○	自己評価を行いながら、日々の取り組みを振り返る機会とし、外部評価結果を活かすよう取り組んでいきたいと思っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議のなかではグループホームへの要望やアイデアも出してもらっている。話し合いの内容を職員間でも共有しサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所へ行く機会や他の会議等で市町村担当者と会うときなど情報交換の場としている。また、不明な点等は電話にて助言をもらうよう努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職種(管理者・ケアマネなど)によっては講義を受け理解できているが職員すべてが理解しているところまではいっていない。	○	職員内部研修などで学ぶ場をつくりたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で「高齢者虐待について」学び、職員一同虐待防止に努めている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を見ながら説明を行ない、疑問や不安点をお聞きしその場でお話している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中での些細な不満などは利用者が口々に言っていることを聞きながら対応している。言えない方は家族が代弁して言ってもらい対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や遠方の家族には電話で報告している。また、緊急時(発熱や転倒など)はその都度電話連絡をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や不満等を話してもらっており、聞いた職員は管理者や他職員と共有し改善していくよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の中で意見を聞き、改善や提案策を職員間で話し合ったり、申し送り実践している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務時間帯での職員数の充実に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設の職員も頻繁にグループホームへ寄り利用者と顔なじみになるよう努め異動等によるダメージを最小限に抑える努力をしている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	見学やグループホーム協会の研修を通じて、他施設との交流の機会をもっていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談しながら、ケアマネと相談し支援方法を見極め、グループホーム入居外においても他サービスの紹介や提案し対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族より本人の人となりを聞きその方にあつた対応に努め、無理をすることなく様子をみながら馴染めるよう支援するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事・炊事などで出来ることは共にしてもらい、レクなどを通し笑い、時に怒り一日を楽しく過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会に頻回に来てもらい関係がうすくならないようお願いしている。そして、面会に来た際にはいろいろな出来事を伝え共によるこびや心配ごとを共有するよう努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会の際、テーブルで一緒にお茶を飲み今までの状況などを聞くよう常に話しかけを行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちが面会に来てくれた際、居間でゆっくり過ごしてもらい入居者本人にお茶を入れてもらい勧めてもらっている。帰る際には又来てもらえるようお願いしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	うまく関われない利用者に対しては、職員が間に入り橋渡しをしている。利用者同士で折り方などを教えあうなどの関係が築けるよう努めている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設入所や病院入院の場合は折りをみながら関係者に様子を尋ねたり、面会したりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネもなるべく本人に関わり事あるごとに本人と話をする機会をつくっている。そして、本人の意向にそったケアプラン作りに努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取り、又、入居してからも面会時などに情報収集を心掛けている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活の状況を全職員で把握し出来る事、出来ない事、支援が必要な事など常に見極めケアにあたっている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回、ミーティングをもち状況とケア方法について常に話し合っている。家族、本人からもその都度意見をもらっている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月のプラン見直し以外にも、毎月行っているミーティング後必要であれば全職員で話し合いプラン変更を行っている。	

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の変化、状況はその都度ケース記録に記入し3ヶ月に1度の見直しプラン変更の際は参考にしてている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設との連携により、入居者の状況を踏まえ、家族とも話し合いその方にとってより良い支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域活動への参加をしながら、小学校の校庭への散歩などお願いするなど協力してもらっている。	○	今後、地区消防団にも協力してもらうなど支援、協力関係を広げていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し、甲府市独自で行っているサービスなどの情報収集を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域ケア会議に参加し情報交換や相談にのってもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況(排便・排尿・食事摂取量・体重)など主治医に連絡しその都度指示を頂いている。グループホームで実施可能な支援をその都度主治医と相談し連携をとっている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の受診に同行し、グループホームでの様子・変わったところ・困っていることなどを相談し協力してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師資格を有する職員を中心に、健康管理・異常の早期発見に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者、ケアマネが頻回に入院先へ出向き、病院関係者、家族と今後の相談をするなど早期退院に向けて取り組んでいる。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況を踏まえ主治医との連携、家族、本人等と話し合いを行ない方針を決め、全職員にもその旨伝え共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルの方については、採血の結果や変化あった時などその都度主治医と相談しグループホームで支援可能な方法を検討している。何か異常があった時など対応してもらえよう関係を密にしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別な居所への住み替えには、ケア関係者間引継ぎを十分に行うと共に、移動も協力し可能な限り一緒に支援している。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の生きてきた過程を尊重し、人生の先輩であることを職員に日頃から話し対応を考えてもらっている。また、プライバシーを損ねるような対応があった際はその都度注意しあったり、皆で話し合っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の状況に合わせた説明、簡潔な返事で済むような言葉かけにつとめ、自ら決定できる能力を維持できるようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペース・生活の状況を観察し把握に努め、その人らしく日々過ごせるよう努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族が定期的に施設内で毛染めをしてきている。継続できるように場所の提供や配慮に努めている。又、施設に来てくれている訪問美容士に希望の髪型など注文している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回自由メニューの日をもうけ、その日に食べたい物を献立に入れている。又、出来る方には準備、片付けを毎日交代で手伝ってもらっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買物に行った際、好きなおやつを購入するようにしている。お酒についても入居時希望があれば提供できる環境を心掛けている。家族の面会時、本人の好きな物を持ってきていただき一緒に食べてもらったり、おやつ時に個々に提供している。	○ 好きなおやつ購入の機会をもう少し増やしていきたい。

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	昼夜で身につける下着の種類を変えたり、排泄のパターンを把握し、定時でトイレ誘導し失禁の回数を減らすよう努めている。必要な場合は排泄パターンシートを利用し把握している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については出来るだけ一人一人に合わせた入浴を心掛けているが、夜間の入浴については人員的にも危険が伴うため難しい面がある。	○	入居者の体調や状況をみながら、今後も一人一人に合わせた入浴に心掛けていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	横になりたい時は、食事直後外ない限り、休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味を心おきなく行えるよう場の提供を行っている。又、家事のことが大変気になる方には、積極的に行ってもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いから少額ではあるがサイフに入れ、近くの商店に買物に行きおやつなどを買って皆にふるまう喜びを感じられるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があった時、また、天候の良い時など積極的に戸外に出るように努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の外出申し入れには積極的にお願いしている。本人が家に帰りたいと外に出た際にはドライブや散歩がてら家まで行ってみる機会をもうけている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をまわす介助をしたり、届いた手紙は居室の目の届くところに貼りいつも目に入るように配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ゆっくり気兼ねなく話せるよう場の提供を行ったり本人がお茶・菓子を持ちおもてなしが出来るよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行ない、身体拘束について全職員が理解していて、拘束をしないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊される方に対しても鍵をかけることはせず、外へ行きたい時は職員が付き対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設内の移動に対しては、後ろに付き安全に配慮している。又、常に職員は利用者の所在確認につとめている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬・常備薬は利用者の手の届かない場所での保管し、包丁などにおいては保管場所に配慮している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の勤務の中で事故防止に十分な注意をすると共に、職員会議等において利用者一人一人の状況に応じた対応を確認し取り組んでいる。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内部研修で救急法の研修を行ない応急手当の方法などを習得した。	○	定期的に研修できるよう配慮したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜別々の避難訓練を行ない災害時の職員・利用者の動きを確認している。	○	外出時に避難訓練をしたりと常に身につけるよう努めていきたい。又、運営推進会議員に地域の消防団のかたに加わっていただき協力を得られるよう働きかけていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や必要に応じ家族との話し合いの場をつくり説明している。又、家族より要望があった事柄については管理者・ケアマネが中心となり対応策を職員で話し家族と共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常業務の中で、職員と情報交換を行ない、気づきの事柄を共有し迅速に対応できるよう努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	身体状況や受診結果、服薬の変更などを主に記入するケアノートを作り、その都度記入している。全職員がいつも目を通すようにサインする決まりになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の有無を日々チェックし、水分を多く摂ったり、朝一番で牛乳を飲むなどの工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行ない清潔保持に努めている。就寝前には入れ歯を洗浄剤につける支援を行っている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病で食事制限のある方には、食べる量を若干減らした食事の提供に努めている。一日を通して水分摂取の少ない方には摂取を勧め、自分で制限できない方については摂取量の管理に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	内部研修で感染症の研修を行ない、理解を深めている。又、マニュアルがあり必要な時見られるようにしてある。	○	随時、必要な感染症についてはマニュアル作成し全職員が予防や対応が理解できるように努めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理にあたる職員はエプロンの付け替え、手洗いの徹底をし、まな板・ふきんは常に清潔に保つよう除菌に努めている。又、買物の際や保管には食材の賞味期限に気を配っている。	○	食中毒について研修の機会を作ったり、全職員が調理器具等の衛生管理が徹底できるように今後も進めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	現存の建物を改装したため、玄関は狭い感はあるものの、玄関ドアや玄関中の壁に利用者と一緒に季節ごとに飾りを作り飾る工夫をしている。	○	建物が駐車場の奥という立地条件であるが、今年も敷地内の花壇を利用し季節の花や野菜を植え、外からも眺めてもらえるような環境作りに努めたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所において、利用者と共に季節に合った飾りを作り季節感を感じてもらおうよう努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓のほかソファのあるスペースで過ごせる工夫(ソファで横になる・テレビを観る)をしている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具などをなるべく持ってきてもらうようお願いしている。炬燵やタンスなどを持ってきている方もいる。入居後、本人が使っていたものを捜したりした際は家族にお願いし持ってきてもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンはこまめに調整し気温の変化に気をつけている。又、冬場は加湿器を使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段を昇り降りできる方は2階の居室を使用し、下肢の機能維持のためにも一日に何度となく階段を使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安感の強い方には、付き添いスキンシップを図りながら安心感を与える配慮をしている。全ての利用者の能力を常に把握するよう努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節により、畑で野菜を作り利用者と共に収穫する楽しみを味わっている。		

事業所名: グループホーム めだかの学校 悠ゆう

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

併設に児童養護施設が近くにあり、日々の生活の中で子どもの姿や声を聞くことがそこにあります。又、グループホーム入居者と児童と一緒にレクレーションなど外出することも多くあります。